

甲種白文書

再び本間久雄氏に

有島 武郎

本誌の五月號にあなたのおのせになつた私
に對する御意見と確かに拜見しました。あな
たが私の「主観と感情」と十分に信用し尊重し
て下さるの心すから、維令同じては下さうな
いでもこの點に於ける議論は盡きてゐるやう
です。それは結局あなたと私との稟質の相違
といふことに帰すると思ひますから、繰返し
く申すやうに、私はこれの藝術品と一つ残

久
二般
二般
二般
二般

さおその生れ故郷に歸らせよといふのせはあ
りません。これは私が始めこの後論を發表
した時から云つてゐることと、あなたも十分
お氣付きのことと思ひます。現在外物の作
品を購入する目的で在てられた白樺美術館の
會員たることを申あてゐる位です。あの美術
館が若し既述有数の藝ある御家の作品全部を
購入して日本に移す目論見で在てうれたもの
であつたらしく私はその會員たることを拒
むべき。私は過長に於ける(この過長といふ

私の始めからの條件にもあなたは一顧も拂



たぬつたりと悠らく私はその會合たることを推
してせよ。私は温長に於ける(この温長といふ

久

2

私の始めからの條件にもあなたは一顧を拂
つては下さらぬやうです(代表的作品をその
生れ故伊に帰ししめよと申したのです。その
理由は環境の問題になります。この事につい
ても可なり判然と繰返して述べた精りですが
更らに一言を附加へます。

あなたは環境の尊重は、藝術鑑賞上の心理
過程のことに属します。かういふ心理過程
も徑て味はれた藝術鑑賞の悦びは自ら別の境
地を醸きますといつてあられます。この考へ

には更らに異存がありません。然しあなたは
藝術に於て環境を尊重せらるゝ以上、より大
きな藝術鑑賞の悦びを得るためには、その鑑
賞の心此過程に於て環境をより多く考慮に入
れぬばならずぬといふ結論に達せられぬはあり
ますまい。約めていへば、環境のより大なる
尊重は、藝術鑑賞の悦びをより大にするとい
ふことに存ります。即ち一つの藝術品を鑑賞
するには、その藝術品が生れた環境にあり近
くその作品を併置することが必要されぬは存

遊

らぬはありませぬか。これ以上をいふべく

以上の篇は月日過ぎると思ひます。

その作品を併置することが必要ならぬは

22

らぬはありませんか。これ以上をいふべく
 以上の論理は明白過ぎると思ひます。この立
 場はあなたも私も等しいのです。唯あなたは
 環境から孤立させて置いて加減な仙までは
 賞が出来るのではないかと仰有るし、私はいし
 加減な仙までは出来るけれどもそれは現着的
 といふことは出来ない。だから代表的な作品
 (殊に過去の)だけはその環境の中にあつて鑑賞
 したいものだといふ所に差異が生ずるのです。
 これは前にも申したやうに尊望の差だから、
 何人とも仕方がないと思ひます。要するにあ
 なたは藝術鑑賞の便宜を尊重され、私は藝術
 そのものをより多く重んじたいとす
 るその差から起る異論です。
 後ろの方を徳んで気がつきました。あなた
 は私の過去のといつた意味を無視してはおら
 れませんか。然しあなたは過去に現れた
 藝術と未来に現はるべき藝術とに、環境の向
 題については差別をつける必要のないことを
 主張しておられます。これは實際問題の上で

容易に決定されることとです。わさく区分せら



主張しておうれます。これは実際問題の上心

容易に決定されることでは。わさく区分せられ
 れてゐる環境が飯々擴加つてその区分せられ
 た数を減じて行きつゝあることは、^{今の}この世界
 全體の上に今行はれつゝある傾向はあつたか
 首肯なさるべし。早い話が維新以前に於て
 は、各藩は^廣其の自然に於て、狭義の自然
 に於ても、他の藩から截然と限られて、^中中さ
 々な各藩の環境を造つてゐた。而して各藩
 にはその環境に影響せられた特殊な積習が存
 在してゐた。然るに維新以後加らるゝわさ
 く環境が融合^{地方}靡されて来ると、かゝる^{地方}積習
 的な積習は追々に他の環境の影響を受け
 その特色を失いつゝあるではありませんか。
 かうなつて来ると、人はある地方で生れた積
 習品を必すその地に留めておかねばならぬ必
 要は感ずることが落くなりませぬ。自然は人間
 の歴史ほどに老いぼれませぬ。私はさうい
 いました。然し鹿児島で産出したおんなを
 青森の人でも食ふことが出来る世の中になつ
 て来てゐます。青森の人はこれによつて鹿児

島の空の青さも夏の暑さも、味はない時以上
 二 想像することばかり来ます。又青森の人自身

青森の人... 出て来てゐます。青森の人はそれによつて鹿児島



島の空の青さも夏の暑さも、味はよい時以上に
に想像することが出来ず。又青森の人自身
が鹿児島まで行くのも、その^{容易さ}に於て彼新以
前に於ては空想だも出来なかつたこと。だから
だから鹿児島^の自然から考へては青森人の環境
は換へられてゐる譯です。而して若しその青
森人に生^長の本然的な欲求がある以上は、縦
令その人が自分の義務制の範囲を自分の故
郷だけに限らうとして、到底故郷以外の
響を覚えることもしにはゐられませぬ。かくして

環境は相互的に amalgamate して地方的の持
色を失つて行きつゝあるのは世界中に欠られ
る拒み難き現象ではありませぬか。青森人は
昔は檜と杉とを描いてゐればよかつたかも知
れませぬ。然し今は米國で盛んに栽培さ^れる
林檎の本をも自家の畑の中に見せさねばなら
ないのです。而してあなたが仰存るやうに環
境と個性は密接な紐であるが故に、米國から
輸入された林檎の木を持つ青森人は、昔の青
森人ではな^く、林檎の本を持つた^ら米國人

にありてゐるのみです。この傾向が益増大した

森人ではなく、林檎の本と持ったロイヤル人

南

久

にありてゐるのです。この傾向が益増大した結果を考へて所変なさい。青森人は益に世界人にありてしまふのでせう。その時彼れはかくばかり世界化した環境と、他の人々と同じ生活をする世界人と成て、何と便りに彼れの藝術を特色づけねばならぬ。彼れ一個の(異特)な性格によるの外ないはありません。か。未来に於て、藝術が益環境の影響から脱して、個性(こころ)個性といふのは社会に對する個性といふやうな意味で使はれたらなければなりません。各人が他人から自分を殊別する為めに持つ特異性そのものを指してゐるのです。その際、世に於て到達せられると私が主張したのはこの辺の消息を申したのです。幸に評涼解を得れば幸甚です。

私はあなた様の綿密な評(意見)に、かいはら前二度申した私の言葉を訂正する必要がないやうに思います。唯私はあなたが極めて親切に私を教へようとして下さつた御好意に對しては感謝(感謝)の意をいふと思ひます。後編とい

十分の

南

へばすに喧嘩腰になる文壇に、あなたを論敵として持つたこと、私の喜ぶでありました。

久

75

へばすく喧嘩腰になる文壇に、あなたを論敵
として持つたこと、^お私の喜びでありました。

一九二〇、四月六日 於京都

抑に私を教へようとして下さつた御好意に對
しては感謝の意をこころと申します。後編とい

十分の

